

自分も頑張る、みんなと頑張る…できることをする喜び

校長 佐伯 孝司

ある日の英語の授業です。今日の学習のゴールは、街で道案内ができるようにするための英語表現を見付けることです。児童たちは、みんなの共通のめあてを確認すると、一人一人が学習活動を始めました。



タブレット端末を使っているのですが、一人一人開いている画面が違ってきます。イヤホンで音声を聞いている児童もいます。ゴールは同じですが、たどり着くまでの道のり・方法は、試行錯誤しながら粘り強く、自分で考え、判断し、学びとったものを表現していきます。教員もALTも、一人一人の児童の様子を見ながら支援・指導しています。後で、児童が見付けた成果を共有し、一人一人が自分の学習に生かします。

同じように、毛筆書写の学習でも、文字の配列などの共通の学習内容について、動画で確認する、お手本の文字に書き込みを入れるなど、それぞれの児童が考えて書く様子が見られました。



学習活動のゴールを共有しているので、友達の意見を自分の考えに生かそうとする気持ちをもって、意見交換をすることができます。友達がどう考えているのかを一つの画面で確認し、参考にする様子も見られます。お互いに見付けたり表現したりした言葉や絵を根拠に、話し合う活動も重視しています。効果的に話し合うための言葉の力を身に付けることも大事にしながら授業を進めていきたいと考えます。



一人一人に合った学び、協働的に課題解決に向かう学び、その学びを粘り強く進めていく態度を大切に、本校の授業の改善を図るよう授業研究・研修に取り組んでいます。何を学ぶか（内容）という視点とともに、どのように学ぶか（過程・方法）、何ができるようになるか（育てたい資質・能力）といった視点で、主体的に学ぶ児童の姿を育てていきたいと考えます。自分の目標に向かって頑張る、誰かのためにできることを考え協力する、人とのかわりをよかったと感じる心と態度が、授業だけでなく、行事等の様々な活動にも広がっていくことも期待しています。

デジタルツールを有効に活用しながらも、体験的に人との関わりの温かさを感じ、価値を理解する場面も意図的につくるよう考えていますが、児童はそんな場面を自然につくっています。

1～6年生がグループに分かれて遊ぶ「なかよし班活動」では、6年生のリーダーシップとともに、フォロワーシップを育てる場にしたいと思っています。活動を重ねるうちに、自然なコミュニケーションが生まれます。6年生の姿を見付けた1年生の嬉しそうな顔。1年生に囲まれながら、6年生が最後まで責任をもって活動場所をきれいに片付けてくれました。



臨川幼稚園の運動会の練習が中休みまで延びていたとき、遊ぼうと思って校庭に出てきた児童たちも、頑張る園児を見て、笑顔と拍手で応援してくれました。自然に温かい応援の輪を広げていく児童に感心しながら、そんな児童の姿が見られる臨川小学校でありたいと思いました。

